オイスカ浜松国際高等学校

マリンスポーツ部

高校生ボランティア・アワード２０２３

「マリンスポーツの聖地」浜松・浜名湖の魅力を発信したい

■市街地から車で３０分以内、多彩で、アクセス至便な水辺環境

遠州灘、浜名湖、天竜川などの水辺は市街地から約30分の移動でアクセスでき、また大都市圏の中間地点に位置する浜松市は、新東名高速道路や新幹線といった交通網を使うことで、東京・大阪・名古屋などの大都市圏からもアクセス至便なエリアです。都市圏からマリンスポーツが近い暮らしの魅力に引き寄せられた移住者も増えています。
海・湖・川が揃った水辺環境と、日照時間が多く温暖で穏やかな気候は、初心者から　プロまでが安心して多彩なスポーツ・レジャーを楽しめる立地です。
マリンスポーツ関連企業や体験施設も多く立地し、2000メートルコースを持つ「天竜ボート場」など全国でも有数の設備を持つ施設も整備されています。

■マリン関係者からご支援いただき、カヌー９隻、シーカヤック６隻、SUP１、6mカッター2隻を貸与配備。

マリンスポーツ基地としての器材や設備の整備を進めていますが、障がい者等を含めだれでも乗船できるセーリング器材がないため、B&G海洋クラブに登録していただくことで、器材の整備を進めるとともに、県内外の海洋クラブや海洋センターとも連携を推進を目指してます。
また、豊橋海洋少年団、ボーイスカウト、ガールスカウトなどの少年団体とも連携します。

課題テーマ

①水難事故が多いことで知られる静岡県・浜名湖

浜名湖は、開口部である今切口から、淡水と海水が合流し潮の流れが複雑となる全国の「汽水湖」の中でも突出して事故が多いことで知られています。

②観光産業の主要産業化へ

人口減少や内需縮小等の環境変化に対応し、持続的発展をとげるため”浜名湖”を中心とした観光資源を世界レ ベルへ。

③体験格差解消活動のために「ハンザ級ヨット」の体験機会を増やしたい！

浜名湖に面した浜松市・湖西市・愛知県豊橋市などの子供達への海洋体験活動の中心にハンザ級のセーリング普及に努め、三重県河芸のバリアフリー活動を参考に浜名湖でも老若男女が楽しめるマリンスポーツ基地を具体化します。そのための一歩として、小中学生を対象としたヨット教室を展開します。そのため令和5年1月、新設の「浜名湖海洋少年団」内に「セイラビリティ浜名湖」事務局を設置しました。

海のバリアフリー

10 人や国の不平等をなくそう

課題解決のために

3 すべての人に健康と福祉を　9 産業と技術革新の基盤をつくろう　12 つくる責任つかう責任　13 気候変動に具体的な対策を　14 海の豊かさを守ろう　17 パートナーシップで目標を達成しよう

ライフジャケット啓発運動

浜名湖キューバヘミングウェイカップ

浜名湖海洋少年団　結団式　2023.1.28

命と地域守れる大人に

浜名湖海洋少年団 結団式

浜名湖を中心に、カヌーなどの海洋活動を通じて青少年の健全育成に取り組む「浜名湖海洋少年団」の結団式が28日、浜松市中区で行われた。参加した団員の児童生徒11人は、活動開始に向けた期待で胸を膨らませた。

浜名湖海洋少年団の結団式に出席した団員ら＝浜松市中区

カヌーやロープ訓練　海洋活動へ決意

同少年団では、少年少女が海上での通信手段となる手旗信号やロープワークの訓練、浜名湖での海洋活動に取り組むほか、湖岸清掃なども行う。子どもの指導は、団員のオイスカ浜松国際高（同市西区）のマリンスポーツ部員が一端を担う。

式典には団員と日本海洋少年団連盟の関係者ら約35人が出席し、同連盟から同少年団に団旗と団員証が授与された。

団員を代表して伊藤奨麻さん(16)＝同校1年＝が「自然環境に恵まれた浜松市で浜名湖を愛し、守り、自らの命と地域を守れる大人を目指して元気に活動していく」と決意を述べた。

同少年団は4月から月2回程度、活動を展開していく。

（細江支局・大石真聖）

セイラビリティな浜名湖へ

セイラビリティ活動とは、sailingとabilityが一つになった造語で、今や「Sailing For Everyone誰もが楽しめるセーリング」として、年齢、性別、障がいの有無に関係なく世界３２ヶ国に広まっています。

海上保安庁御前崎署×湖西消防署×浜松ライフセービング協会×静岡県三ケ日青年の家

海岸保全活動へ定期参加

☜海岸林保全

砂浜侵食保全☞

地域に共感される存在へ
自然の解放感・気持ちよさ・楽しさを感じてほしい

・初級マリンスポーツ指導者講習会（県教育委員会主催）修了
・静岡県三ケ日青年の家「海洋指導員」 認定
・ライフセービング・サポーター講習会　修了証

■主な協働団体
静岡県三ケ日青年の家、御前崎海上保安署、浜名漁協、富士マリーナ、ウィンドサーフィンプロショップNUTS、ブラインドセーリング協会東海支部、視覚障がい者団体・六星ウィズ、浜松ライフセービングクラブ、ボーイスカウト、豊橋子供の命を守る会、地元視覚特別支援学校、静岡県、浜松市、湖西市

2010年6月18日　静岡県三ケ日青年の家　転覆事故を忘れない

・ご遺族 西野さんの言葉　決して忘れることなく
「合宿事故のことを忘れずに、どうすることが子どもを守ることにつながるかを考え、それを安全確保の判断をするときに役立ててほしい。」
・浜名湖海洋少年団リーダー団員として子どもたちへ指導
・浜松市ビーチ・マリンスポーツ推進協議会　加盟
・環浜名湖議員連盟主催　環浜名湖未来創造プロジェクト登壇

「夢があるっていい！」合宿中、花菜さんが日誌に書かれた言葉です。